



かどや通信

第25号

発行日：平成30年3月

発行行：かどや保存会

発行責任者：清水 久行／編集：廣野 克子

凍とたたずまいに釘づけ 阿部夫美子和紙人形展

「阿部夫美子和紙人形展 日本神話の世界」が三月九日から三十一日まで開催されており、作品の気品あるたたずまいが見学者を釘づけにしている。

阿部さんの作品展は三回目となるが、今回は二〇一六年十二月に発行された写真集『紙神 阿部夫美子和紙人形作品集』から十三点と、おめでたい七福神や最新作も楊貴妃等五点が展示されている。

慈愛と名付けられた作品は、観音様をイメージした仏像の最初の作品で、今後シリーズ化して観音様作りに取り組んでいくという。

神話をテーマにした神々の作品は、天照大御神をはじめ、三貴神である月読命や須佐之男命等が神々しく、あるいは躍動的に作られている。なかでも月読命は、二〇一一年三月十一日午前には仙台近郊の工房



に和紙を
発注した
ところ、
午後には東
日本大震災
が発生。

連絡がとれず制作をあきらめかけていたが、一週間後に「津波の被害はなかったので、頑張つてつくります」との電話があり、完成にこぎつけた。「被災地の闇の中でも、せめて月明かりがあれば足元を照らすことができる。そんな思いを込めて闇を照らす神を作った」そうで、被災された方々への祈りが伝わってくるような、慈愛に満ちた作品である。

阿部さんは四十年程前に和紙人形作家の第一人者である中西京子氏に師事したが、その中西さんが「神々の個性をこれ程までに豊かに表現できるのだと、目を見張る想いです」と絶賛している。

見学に訪れた人たちも「神々しさに心を打たれました」「いつまでも見ていたい」とため息まじりに話してくれた。偶然かどやに立ち寄った観光客も「すばらしい作品に遭遇できて感激です」等、賞賛の声が多数寄せられた。

リピーター続々 ひな祭り彩る吊るし飾りと行灯

二月の展示は毎年恒例の「かどやのひな祭り」だ。明治時代に作られた廣野家特製の御殿雛と、かつて青



果店として
繁盛してい
た土路屋所
有の江戸期
のお雛様、
昭和中期ま
で和菓子店
として人気
を博してい
た武蔵屋所

有の昭和初期の御殿雛が展示された。さらに今年は「灯のオブジェ」と題した鳥羽市の野村真さん作製の行灯二十二点と、志摩市の大屋さんの吊るし飾り約百六十点が展示された。物作りが大好きな野村さんが行灯作りを始めたのは一年前に京都嵯峨野で竹細工の行燈に魅せられたのがきっかけだ。竹や木の蔓等に越前和紙を貼ったもので、二階六畳の部屋が柔らかな光に包まれていた。

一方、野村さんとはいとこ同士の大屋さんも若い頃から様々な手芸を楽しんできたが、吊るし飾りを始めたのは七年前から。独学で始めたそうだが、作品は素人の域をはるかに超えた目を見張る出来栄で、リピーターが続出。来館者は2月としては過去最高、月別でも過去四番目となる七五九名を数えた。

かどや塾 多様なテーマを取り上げて

「かどや塾」は、多くの方々のご要望にお応えするため、ほぼ毎月様々な分野の多岐にわたるテーマを取り上げている。

《鳥羽愛あふれる歯の話》

第五十五回かどや塾は「元気の源は健康な歯から」と題して、寺本歯科医院鳥羽市三丁目・三代目・寺本祐二先生をお招きし、人が健康であるためにいかに歯の健康が必要か、歯が果たす役割や歯の健康維持等について話していただいた。

寺本さんは、約十二年間長野県で歯科医をしていたが、昨年鳥羽に戻り、同医院三代目に就任した。

長年鳥羽を離れていたが郷土愛は人一倍強く、歯の話と共に、今後の鳥羽のあるべき姿についても熱く語った。鳥羽を客観的に見つめ分析した寺本さんのお話は、パワフルかつ鳥羽への愛情に溢れており、歯の健康はもとより、参加者に鳥羽を見つめ直すきっかけを提示してくれた。



《タイルでコースター作り》

第五十六回かどや塾は「クラフト体験！タイルでコースターを作ろう」と題した体験講座が開催された。講師は、昨年十一月に犬や猫などのペットをシャープペンシルで描いた作品を展示した高瀬洋さんだ。本業は工業デザイナーだが、多才な高瀬さんは、週末には志摩市浜島町の地中海村でタイルアートのコースター作り等の指導も行っている。昨年の作品展でのご縁で、講師をお引き受けいただいた。

コースターは、ハセンチ四方の枠の中に様々な色の丸や四角、三角等の一センチ以下の小さなタイルをモザイク風に組み合わせる配置し、そこに石膏を流して作った。参加者全員が初体験だったが、色の取り合わせやちょっとした配置で自分らしさが表現できるとあって、真剣そのもの。非常に静かな講座となったが、皆満足いく作品が出来たようで、作品完成後は楽しいに参加者同士で作品を見せ合っていた。

《味噌作りにも挑戦》



二月には事務局三代目の提案

で味噌作りにも挑戦した。指導は昔ながらの製法で手作りした糀から味噌を作っている紀北町の老舗・河村こうじ屋の三代目・河村幸信さんにお願した。添加物のない味噌作りとあって、定員をはるかに超える申込をいただき、お断りするの忍びないと、午前九時からと十時半からの二回に分けて実施した。

味噌作りは、当日の朝こうじ屋さんで煮てきてくれた大豆をポリ袋に入れて漬すことから始まった。漬した大豆に糀等を混ぜていくつかのボール状にまとめた後、樽に投げ入れ、空気が入らないよう圧しながら詰めたが、汗ばむほどの力作業だった。その後表面を平らにして塩を振り、空気に触れないようラップをはりつけ、重石を置くなどして蓋をしたら七月頃にガス抜きするまで熟成を待ち、完成は九月頃。おいしい

味噌の完成を願い樽に名前と仕込み日を入れてお開きとなった。

《おひな様作り大人気！》



吊るし飾り(1ページ)が大人気となったため、急ぎよかどや塾で「おひな様を作ろう！」を実施することになった。定員は十二名だったが、申し込みが殺到し十七名まで枠を広げたが、それ以上は対応不可とお断りせざるを得なかった。

講師の大屋さんは十七名分の材料を事前に裁断し、万全の態勢で臨んでくれた。一度に十七名の指導はかなりきつかったようで、予定時間をオーバーしたが、それでも一人ひとりに丁寧に対応してくれたお蔭で、参加者の満足度は高かった。

この好評を受けて四月からは「かどや手芸倶楽部」が発足。毎月異なる吊るし飾りに挑戦する。一回目は椿を作る。定員は十名。開催日は、毎月第二土曜日(五月のみ第二土曜日)。



新企画続々

三代目のアイテア光る！

かどやでは、調理倶楽部をはじめ日本の文化である茶道や川柳、小唄等の教室を開催しているが、二十九年度は五月に「お針子倶楽部」が、九月には「おさかな倶楽部」が新たにスタートした。ここでは、新企画の活動状況をご紹介します。

《お針子倶楽部で女子カッパ！》

お針子倶楽部の前身は、2回シリーズで昨年二月と三月に開催したかどや塾「ナオちゃんとおリジナルバッグを作ろう」だった。

かどや塾の企画は、三代目事務員の子供さんが小学校に入学するため、レッスンバッグやシューズ袋、コップ袋を作ってやりたいが、腕に自信がないしと頭を悩ませていた



時に閃いたものだった。二十八年九月に開催された「着物リメイク作品展」の出品者・澤村直子さんが家庭

科の教諭だったのを思い出し、オリジナルバッグ作りの指導を依頼したところ、二つ返事で了解を得たのだ。早速、同じ悩みを持っていたママ友に声をかけ、五名が参加した。めでたくバッグを完成させすっかり自信ができた三代目は、お兄ちゃんたちのバッグも新調し、子どもたちから尊敬のまなざしで見つめられたらしい。

その話を聞きつけたかどやの常連さんから「わたしもいろいろ作ってみたいもんがあるんさ」との声が上がり、ならば定期的で開催しようとお針子倶楽部の誕生に至ったのである。

これまでに作ったのは、ねこクリップ、チュニック、サマーワンピース、エプロンとクッキング帽子、ガウチョパンツ、ベスト、サコッシュ（肩掛けバッグ）、ポケットティッシュケース、袖付チュニック、ストー



の時だけ申し込めばよいので、その自由度も人気の要因となった。参加者が多い時は午前と午後の2クラスで対応している。

三代目は「お針子のお蔭で、女子力がグリーンとアップしました」と得意げだ。特に「娘にベストとガウチョパンツを作ってやれたのが嬉しかった」と言っ。お針子倶楽部はそんな母の愛が原動力となっている。また「ひとりだと途中であきらめてしまことも、仲間がいると頑張れます。それに先生が魅力的で教えてもらえるのが楽しい」そうだ。

なお、平成三十九年度は、月一回、午前は小物作り、午後は難易度の高い洋服等と、技量とニーズに応じた内容で継続していく予定。関心のある方は、ご一報を。

《魚の魅力再発見！

おさかな倶楽部》

「魚料理が苦手」という子育て世代の主婦を対象に開講したのが「おさかな倶楽部」だ。もちろん仕掛け人は三代目。「魚が新鮮でおいしい鳥羽に住んでいるのに、魚がさばけなくて」と悩んでいた時、新聞で魚食リーダーの資格を持つ菅島の小寺めぐみさんの記事を読み、早速



講師依頼をしたのだ。快諾いただいたので、昨年九月から隔月の第

二水曜日の午前中に実施している。基本となる魚のさばき方を習った後は、和風・洋風の様々な魚料理を紹介していただいた。

新しいレシピを習得するだけでなく、毎回料理完成後の食事は笑いの絶えないひと時になっている。参加者が同世代のため、子育てや日頃の悩み等も話題にのぼるが、それを「あるあるそんなこと」と皆で笑い飛ばすので、ストレス発散にも大いに役立っているようだ。

将来、さかな料理に自信がついたら、なかまのクボクリ食堂鳥羽三丁目でワンデーシェフに挑戦したいという夢もあるようで、今後の活動が楽しみだ。



《新しい季節①》

四月は新年度の始まりで、人生における新たな季節を迎える人も多い。かどやでも三人の有力スタッフが三月末にかどやを卒業する。大きな痛手だが新たなスタッフの参入により、新しい季節を迎えることになる。新スタッフについては、後日ご紹介できればと思うが、新たな世界に旅立つかどや最強の事務員三代目が手紙をくれた。

✽ ✽ ✽ ✽ ✽

「かどやで働くようになったのは平成二十八年四月から。あつという間の二年間でした。一年目は館内のご案内や事務の仕事覚えるのに必死で、何もできなかったことを思い出します。二年目はかどやでやってみたくて思っていたイベントや企画を清水館長はじめスタッフの皆さんが快く賛同してくださったお陰で実現することができました。私は裁縫が苦手でしたが、いつか子どもたちに手作りの物を作ってやりたいという思いでお針子倶楽部を立ち上げ、今では小物だけでなく洋服まで作れるようになりました。川柳教室では、記念冊子の作製を任せられ、試行錯誤しながら本を仕上げる事ができました。夏休みの寺子屋では、目玉企画をいくつも実現でき、子供たちだけでなく、

親御さんたちにも喜んでいただけました。また、鳥羽に住む方々を講師としてお招きし、お魚倶楽部や子供正月等を実施でき、参加者と共に楽しい時間を過ごすことができました。まだまだ書ききれない程たくさん思い出でいっばいです。

一方、ご来館いただいた方々からは「こんな素敵なお店があったなんて」「楽しかった。友達にも紹介するね」「目の保養ができたわ」等と声をかけていただき、笑顔で帰っていただけただけのもとてもうれしいことでした。かどやは、人が集い、楽しみ、笑顔になれる観光施設だと実感しています。

私はかどやで人生の宝物をたくさんいただきました。スキルアップもできました。この貴重な経験を今後の人生に活かし、またボランティアスタッフとして戻ってきます。

お陰様でこの二年間いろいろな方々との出会いを通して、自分なりに成長できた気がします。最後になりましたが、かどやに足を運び優しく接してくださったお客様、私を支えてくださったスタッフの皆さん、本当にありがとうございました。三代目のこれまでの活躍に感謝と、今後の活躍にエールを贈りたい。

◆◆◆貸部屋の案内◆◆◆
かどやを有効にご活用いただくこと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご活用ください。詳細は、かどやへ。電話〇五九九―二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された使用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 平成30年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

お陰さまで29年度は331名の方々が会員登録してくださいました。今後も一人でも多くの方々に楽しんでいただけるよう、更にこの輪を広げたいと思います。是非ご登録いただき、ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

30年度(H30/4/1～H31/3/31)の年会費(2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入ください。

- (1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
- (2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751
百五銀行 普通 かどや保存会 801-460713